R.I.District 2670　高松南ロータリークラブ　4月号

Rotary

Monthly Report

2023－2024

ホームページ　http://www.takamatsu-south-rc.com/

世界に希望を生み出そう

世界に希望を生み出そう

RI会長：ゴードン R. マッキナリー　会長：熊田 浩　幹事：住田英樹

例会場／JRホテルクレメント高松3階「玉藻の間」 毎週水曜日　12:30～13:30

2023-24年度　3月6日　第33回

日時／令和6年3月6日(水)12:30～
場所／JRホテルクレメント高松

会長挨拶　会 長　熊田　浩

日経平均が史上最高値を更新し、株を持たざるリスク、機会損失のリスク、乗り遅れるなと金融業界は活気づいています。株をやる会員も少なからずおられると思いますが、儲けたいと思うのが人の本性であると認め、利己と利他の調和を説くのがロータリーであります。ロータリーの最重要文書の一つ、「社会奉仕に関する1923年の声明」（決議23-34）には、「ロータリーは基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。これは「Service Above Self（超我の奉仕）」の哲学であり、「One Profits Most Who Serves Best（最もよく奉仕する者、最も多く報いられる）」という実践的な倫理原則に基づくものである。」と記述されています。「他人のために奉仕する」のは何のためか。英語の原文ではdutyと書いてあります。つまり義務。社会のルールとしてそうなっているという事ですが、人間は本質的には利他的な心を持つ生き物だと言われています。わかりやすい例では、誰かを助けたり、親切にすると悪い気はしません。相手に感謝されたり、相手の喜ぶ顔を見た時、嬉しくなり、やって良かったと感じるはずです。これが、本質的に利他的な心を持っているという事だと思います。この、人が本来持っている利他の心を最大限生かして、お客さんに喜んでもらおうと仕事に励めば、結果として自分の利益につながるというのがロータリーの考え方なんだと思います。本日は、大和証券の伊藤支店長に最近のマーケット情勢についてお話ししてもらいます。時間が許せば、クラブ随一の経済通である前田会員にも話してもらいますので、景気の良い話をご期待ください。

卓　話　伊藤伸一郎 会員

「最近のマーケット情勢」

ニコニコ箱

三木会員「先週の卓話につづき本日のお誕生日のお祝いをいただきありがとうございました。」

藤田会員「株価も上がり、景気も良好、景気は気持ちだとのこと。今年のお花見は盛り上がりそうです。高松市の桜の開花は3月21日頃。混雑する栗林公園のお花見スポットで場所取りします。場所取りご希望の方は、お花見弁当をご注文頂けますと幸いです。」

計￥6,000　　合計￥404,400

会員掲示板

●メークアップ／5名
●ビジター／0名

ロータリーソング
「国歌　四季のうた」「バースデーソング」
ソングリーダー「平井会員」

2023-24年度　3月13日　第34回

日時／令和6年3月13日(水)12:30～
場所／JRホテルクレメント高松

会長挨拶　会 長　熊田　浩

今日のプログラムは、昨年夏に地区の青少年短期交換プログラムに参加した藤田会員のご子息、藤田和佑君によるニュージャージーへの短期交換報告です。地区の青少年短期交換プログラムの歴史については、8月の例会で、豊田パストガバナーから少しだけお話してもらいましたが、当地区と7470地区との関係は、1978年、当時のRIがマッチドディストリクトプログラムで両地区をペアリングしたことからはじまったそうです。昭和53年5月、東京でロータリー国際大会が開催されました。マッチドディストリクトプログラブで当地区と手紙のやり取りをしていたニュージャージーの747地区幹部が東京の国際大会に来日し、当地区関係者と直接対面、親交を深め意気投合したそうです。当時の当地区の代表は松山ロータリークラブの梶浦暲一（かじうらしょういち）ガバナーエレクトでした。247地区から来日したスベン・ジョンソンPDG、ロス・レドモンドDG等を松山まで案内しトントン拍子で青少年短期交換事業が

決まったそうです。以来45年間、感染症や地震災害による中断はあったものの、延べ2000人以上の参加者を誇る日本で最も成功している青少年短期交換事業として継続しています。7470地区とは青少年短期交換に限らず、ロータリー友情交換プログラムやGSE（研究グループ交換）など、当地区と深い関係があり、太田PDG、豊田PDG、向井会員、堀会員、学生の時に短期交換プログラムに参加された多田会長エレクト等がニュージャージーを訪問されています。次年度の短期交換プログラムの応募者はおられませんでしたが、近々ホストファミリー募集が来ますので、国際交流に関心のある方はホストファミリーを引き受けられては如何でしょうか。

卓　話　　岡山白陵高校２年　**藤田和佑** 様

「短期交換派遣プログラムに参加して」

昨年、7月27日より8月17日まで、短期交換プログラムに参加させていただきました。ご推薦いただいた高松南ロータリークラブの皆様には心より感謝いたします。

派遣プログラムの面談で、大島さんから告げられた言葉がとても印象的です。「Study abroad ではないよ！Student exchange だからね！」このプログラムは、自分自身の学びの場というより、香川県、四国、しいては日本の特長や魅力を伝える役割を担った代表者なのだと、大きな責任を感じました。出発に際し、風呂敷や扇子などたくさんのお土産も用意しましたが、栗林公園の風景がデザインされた風呂敷は、どのホストファミリーでもとても喜ばれました。

一つ目のホストファミリーはブラジル系のご夫婦。親族がみんな集まってホームパーティを開いてくれました。アメリカでは休日にホームパーティをするのが一般的らしいです。最終日に家で観た映画は、ほとんど聞き取れるようになり、少しずつ英語の社会にも馴染んでいることを実感しました。二つ目のホストファミリーはポーランド系のご家族。ホストファミリーとプリンストン近辺を探索中、美術館では、アートのワークショップを体験。三つ目のホストファミリーは、ユダヤ系の大富豪の一人暮らしの男性、ビルさん。この方は、今まで2670地区との青少年短期交換プログラムに非常に協力してくださっている方です。

フェアウェルパーティで、私は、司会進行に抜擢、日本から持って行った甚平を着用して出席しました。拙い英語が通じるのか不安でしたが、英語でのジョークを笑ってもらえ、多くの人に「Good MC!!」と褒めてもらえたことが最高に嬉しい思い出です。パーティーのあと、ホストファミリーのビルさんから「これはアメリカの貴重なコインだ。いつかこのコインを私に返しに戻ってきてくれ！」と一枚のコインを渡されました。ビルさんが、私を信じて、私の将来に期待してくれていることが伝わってきました。プログラムに関わってくださったすべての方への感謝の思いと、今まで自分が至らなかった情けなさを反省して、途端に涙が溢れてきました。

アメリカに暮らす人々からは、人種・宗教、考え方は様々でも互いを否定・排除せず人間として受け入れ尊重する寛容さを学びました。その寛容さこそが、多様な発想を促し、自由で快活な活動のエネルギーとなっているのではないかと思います。元々、私は自身の意見をはっきり言える方ですが、渡米当初、彼の国では明確に意見を主張する姿勢に戸惑いを感じることすらありました。徐々に国際人であるには、彼らのように芯のある主張や説得が重要だとの考えに至りました。

貴重な体験の数々は、私にとって大きな糧となり、将来の指針となったことは間違いありません。「いつの日か日本と世界の架け橋になりたい」、「ホストファミリーに託されたコインを持って必ずニュージャージーに戻りたい」と心に誓いました。生まれた時から、高松南ロータリークラブの皆さんにかわいがっていただいており、皆さんに育ててもらったようなものです。将来はロータリアンになって、ホストファミリーになるなど、子どもたちの海外進出の手助けができる人間になりたいと考えています。

私の派遣を推薦し、支援してくださった高松南ロータリークラブの皆様、本当にありがとうございました。

ニコニコ箱

藤田会員「本日は、息子の卓話を聞いてくださりありがとうございました。息子が生まれた時には、高松南ロータリークラブで産休を設定して頂きましたが、皆さまのお導きで、成長しました。」

伊藤会員「皆様のお陰で、私の前任の中村厳友さんが、4月より役員となりました！！ありがとうございます！私も出世できたらいいなあ…。」

山田会員「先週の誕生日のお祝いどうもありがとうございました。転勤はありませんでした。これからもよろしくお願い致します。」

計￥11,000　　合計￥415,400

会員掲示板

●メークアップ／9名
●ビジター／0名

ロータリーソング「我等の生業」
ソングリーダー「村上会員」

3月23日
国際ロータリー第2670地区
香川第Ⅰ・第Ⅱ分区合同
Intercity Meetinng（インターシティミーティング2024）報告

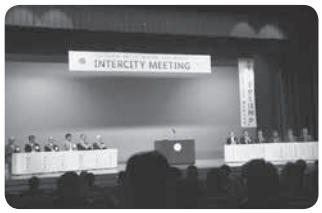
ホストクラブ：小豆島RC、コ　ホストクラブ：観音寺東RCの分担で小豆島土庄町立中央公民館で開催されました。

13時30分吉岡地区ガバナーの点鐘で開会。「君が代」「奉仕の理想」斉唱につづき、今上IM大会会長の歓迎の辞、来賓紹介とつづき吉岡地区ガバナーの挨拶を受け、池田知事から「瀬戸海国定公園90周年の周年記念年に小豆島でIMが開催されることの意義と、平和を希求するロータリークラブの会合が、平和のシンボルである「オリーブ」の島で、また本日のテーマである食に「幸せ」をもたらすオリーブハマチやオリーブ牛等々本日のIMのテーマに合致した場所での開催の意義」の挨拶を受けた。前田地区代表幹事の地区大会の案内があり、若干の休憩をはさんで講演会があった。

14時より記念講演として、IMテーマ「幸せとは何か」と題して「天井画絵師・心学研究家　斎灯サトル氏」の講演があった。演者は、1977年生まれで静岡県在住の芸術家で神社仏閣の「大天井画」の第一人者で、次に訪ねる「宝生院」の壁画も手掛けた。話しながら大判の画用紙に龍（辰）を描くライブアートを披露しながら「日々、全力にが生きがいであり、師に出会えることで幸せになれる、師とは志であり、自分は自転車での全国旅行が師に出会うことであった。挑戦＝謙虚」等々、自己体験を中心に有意義なはなしを綴られた。のち吉岡ガバナーによる所感・講評～点鐘があった。

以上で式典はお開きになり、懇親会上への移動途中に宝生院に立ち寄り樹齢およそ1600年といわれる「シンパク」および斎灯サトル氏手描の壁画を見学した。

17時より懇親会を「オリビアン小豆島夕陽ケ丘ホテル」で持った。「手に手つないで」で閉会した。



2023-24年度　3月27日　第35回

日時／令和6年3月27日（水）12:30～
場所／JRホテルクレメント高松

会長挨拶　会長　熊田　浩

先週土曜日、小豆島で開催されたIMに参加してきました。当クラブからは、新会員3名を含む12名が参加しました。メインプログラムは、芸術家の斎灯サトル氏による龍の絵を描きながらのライブアート講演でした。斎灯さんの講演内容は、最近の日本は失敗に厳しい社会で、失敗した人に対するマスコミやインターネットでの個人攻撃が甚だしく、それを見ている若い人達の考え方に影響を与えている。若者が失敗を恐れチャレンジしなくなる事が問題だと指摘されていました。失敗は最大の財産であり、人は凹んだ分、器が大きくなる。悩んだ人は悩みが大きいほど、悩んでいる人に寄り添う優しさを持つようになるとも話されていました。若者に、失敗を恐れずチャレンジさせる環境を作るのもロータリーの大事な務めだと思いました。講演後は、樹齢1600年の宝生院のシンパクを見学し、宝生院本堂にある、斎灯さんが書いた阿吽の双龍の壁画を見学しました。みなさん、龍の爪は何本あるかご存じですか。是非、調べてみて下さい。懇親会は、オリビアン小豆島夕日丘ホテルで、ホテルオークラ東京ヌーベル・エポック前料理長、高橋哲治郎シェフの地元小豆島食材によるフレンチのコースを楽しみました。久しぶりの小豆島でしたが、大変充実したIMでした。会員の皆様には、次年度も是非、IMに参加して頂けたらと思います。

幹事報告　住田 幹事

今回はテーブルミーティングということもあり、食事時間を長めにとり、やや遅めで会長挨拶、幹事報告が行われた。会長挨拶の中で3月23日のIMの報告があった。そのあと委員会報告では田中戦略計画委員長より当グラブの中長期的目標、歴代会長の運営方針についての説明があり、それを踏まえて中長期的目標の「地域で最も和気あいあいで団結したクラブ」を運営していきましょうとの説明があった。

テーブルミーティングでは住田幹事から次年度の会長幹事業務の一部移管の提案があり、熊田会長から「対外的な事案は会長幹事が扱うがクラブ内の運営で委員会でできるものを移管すること、その結果会長幹事の業務を軽減することで今後の会長幹事候補者のなり手を増やしたい。」旨の説明があった。

ニコニコ箱

吉田（茂）会員「バトドルジさんからカウンセラーのお礼をいただきました。こちらこそ、ありがとうございました。」

宮本会員「声が出なく　山門副SAAありがとうございました。」

ソバハニ会員「今日は、息子のBKの友達の山田さんと参加しました。東京の物流会社の方です。誕生日プレゼントもありがとうございます。おかげ様です。」

計￥6,000　　合計￥421,400

会員掲示板
●メークアップ／29名
●ビジター／0名

ロータリーソング「それでこそロータリー」
ソングリーダー「上野会員」

2024年4月　水と衛生月間

No.	日	時間	場所	例会プログラムおよびその他	備考
36	3	12:30～	栗林公園　商工奨励館	67周年記念例会　客話「栗林公園のご案内について」 香川県交流推進部交流推進課　栗林公園観光事務所 所長　山本知子様	
37	10	12:30～	JRホテルクレメント高松	新会員卓話　大隅　直人会員	
38	17	12:30～	JRホテルクレメント高松	卓話　医療と環境　杉元　幹史会員	
		13:30～		定例理事役員会	
39	24	18:30～	JRホテルクレメント高松	新会員歓迎会	

2024年5月　母子の健康月間

No.	日	時間	場所	例会プログラムおよびその他	備考
	1			休会（定款第7条による）	
40	8	12:30～	JRホテルクレメント高松	卓話「香川RAC年間活動報告」 香川大学RAC会長　桑原　悠様	5/12 坂出RC70周年記念式典
41	15	12:30～	JRホテルクレメント高松	客話「高松市脱炭素型都市推進会議」や 高松市の環境分野の取り組みについて 高松市環境総務課　課長補佐　和泉　志保様	
42	22	12:30～	JRホテルクレメント高松	第6回クラブ協議会	
		13:30～		次年度第1回クラブ協議会／定例理事役員会	
43	29	12:30～	JRホテルクレメント高松	客話　「茶道・伝統工芸の未来」 特定非営利活動法人さぬき茶の湯文化潜思 理事長　松木孝和様	

編集後記

「全ての道はローマに通ず」を彷彿させる演奏会に行きました。世界の中心地的繁栄を誇った大ローマ帝国の都はかくありなん、と想起させる、迫力満点のオーケストラでした。北陸新幹線敦賀延伸で、明治の頃の「東京発 → 敦賀経由 → ベルリン行」の切符が出てきてました。ベルリンの先にはやはりローマにつながっていました。即ち、真理というものは、どのような経路を通ったところで、必ず行き着くものである。真理にいきつくには、決して経路は一つでなく、試行錯誤しながらもいろいろな方法があるものです。企業経営もかくありなん。

歴史を紐解けば、人は生存に必要な食料を入手するため、農業・漁業・狩猟といった第一次産業の「職業」として誕生しました。やがて、その土地を離れても生活できる術を得て、手で物を作る職人が生まれるなど、社会生活が複雑になっていくにつれて社会のなかの「職業」も多様化していきます。産業革命や戦争、コンピュータからIC革命の進捗など社会環境の変化がひとつの仕事＝ 職業をなくし、そして新しく生まれる職業もあり、これからも職業の形は変貌し続けるでしょう。しかし社会の構造が変化してもロータリーのこころは不変です。日本語の並び通りです。「あいうえお」から始まる最初は、あい（愛）で最終行の「わゐうゑをん」の最後は、をん（恩）になります。

私たちは、この愛に満ちた命に感謝し、頂戴した恩を知り、自他共に思いやる心を大切にしたいものです。そのひとつの形が奉仕のこころです。自分とともに大切に育んできたものに感謝する、そのこころをロータリアンは共有していきましょう。そんな４月号です。（編集子）

高松南ロータリークラブ　Monthly Report　　発行日／月１回　　発行／高松南ロータリークラブ
編　集／会報・広報・雑誌 委員会　増尾茂之　上村光男　宮脇光男　谷東伸浩
事務所／〒 769-0102　高松市国分寺町国分 2755　鷲谷直子方　TEL・FAX 087-874-5303